

## 山口情報芸術センター [YCAM] 展覧会

大友良英 + 平川紀道 + 木村友紀 + 石川高 + 一楽儀光 + ジム・オルーク + カヒミ・カリィ + Sachiko M + アクセル・ドゥナー + マーティン・ブランドルマイヤー + YCAM

## quartets online

2020年9月9日(水) ~ 2021年9月8日(水)

特設ウェブサイト <http://quartets.ycam.jp/>

## 更新されつづけるアンサンブル

## 2008年に発表されたインスタレーション作品がオンラインで生まれ変わる

山口情報芸術センター [YCAM] では、音楽家の大友良英をはじめとする数多くのアーティストの共作によるインスタレーション作品《quartets (カルテッツ)》のオンライン版《quartets online (カルテッツ・オンライン)》を発表します。

「quartets」は、2008年に開催した展覧会「大友良英 / ENSEMBLES (アンサンブルズ)」に際してYCAMで制作/発表されたインスタレーション作品です。大友を含む8名の音楽家が個別に即興演奏をしている様子を捉えた映像を、リアルタイムで合成することで永遠の即興演奏が続いていきます。今回発表する本作は、この作品をベースに、ウェブブラウザを用いて閲覧できるオンラインの作品として再構成したものです。この発表はオーストリアのリンツで毎年開催されている世界最大規模のメディアアートの祭典「アルス・エレクトロニカ・フェスティバル」に、YCAMが参加する一環としておこなわれます。

山口での発表ののち、国内外でも展示された作品が、別のかたちとなって、いつでもどこでも体験できるよう生まれ変わります。この機会にぜひご体験ください。



大友良英 + 平川紀道 + 木村友紀 + 石川高 + 一楽儀光 + ジム・オルーク + カヒミ・カリィ + Sachiko M + アクセル・ドゥナー + マーティン・ブランドルマイヤー + YCAM 「quartets online」

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくごお願い申し上げます。

[お問い合わせ]

山口情報芸術センター [YCAM] 学芸普及課

〒753-0075 山口県山口市中園町7-7

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 メールアドレス: [press@ycam.jp](mailto:press@ycam.jp) ウェブサイト: [www.ycam.jp](http://www.ycam.jp)

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

## 「新しい日常」における新しい表現のあり方とは？



「YCAMオープンラボ2020: 続・ナマモノのあつかいかた」より  
第9回「パンデミック後の芸術: 市民参加と連帯」(ゲスト: ボヤナ・ピシユクル)

現在、世界は新型コロナウイルス感染症の世界的流行に直面しています。日本を例にとっても、感染拡大にともなう医療現場の逼迫や、緊急事態宣言の発令など、過去に類例を見ない規模で生活に影響が出ています。あらゆる局面で人々が集うことの可否が問われるようになり、その結果、博物館や劇場、ライブハウスに至るまで、イベントの開催の手法が問われ、社会における文化のあり方も問い直されています。

YCAMも3月以降、2度に渡って長期の臨時休館を実施した一方で、この状況に呼応するかたちのイベントもいくつか開催しました。メディア・テクノロジーを駆使して新しいスポーツのアイデアを実現する「YCAMスポーツハッカソン2020」や、今日におけるアートやテクノロジー、研究開発のあり方を捉え直すトークイベント「YCAMオープンラボ2020: 続・ナマモノのあつかいかた」をオンラインで開催したのもその一例です。

依然として事態の展望は見通せませんが、YCAMでは今後もこれまでの知見を活用し、専門家らと連携しながら、新型コロナウイルス感染症によって定着した「新しい日常」における文化や表現、体験のあり方を模索する取り組みを続けていきます。

そして今回、その一環として、2008年に音楽家・大友良英らがYCAMで制作/発表した、即興演奏のアンサンブルをモチーフとしたインスタレーション作品《quartets》を、ウェブブラウザで体験できるオンラインならではの形態の作品へと再構成し、新作《quartets online》として発表。1年間に渡って、インターネット上で展示をおこないます。

### YCAMスポーツハッカソン2020 + 第5回 未来の山口の運動会

2020年5月3日～5日

「YCAMスポーツハッカソン2020」は、メディア・テクノロジーを駆使して新しいスポーツのアイデアを実現する、3日間のスポーツクリエイション合宿で、「第5回 未来の山口の運動会」は「YCAMスポーツハッカソン2020」で生み出されたスポーツを体験する運動会形式のイベント。ともに2015年から継続的に開催されてきたイベントの最新版。

従来はYCAMの劇場スペース(スタジオA)を会場に実施され、多くの参加者と観客で賑わっていたが、今回はオンラインで実施。ハッカソン参加者は自宅からビデオ会議システムでイベントに参加し、他の参加者と新しい運動会競技を作り上げ、最終的にはオンラインで運動会を開催した。

### YCAMオープンラボ2020 続・ナマモノのあつかいかた

2020年6月7日から8月2日までの日曜日

今日におけるアートやテクノロジー、研究開発のあり方を捉え直すトークイベント。

従来はテーマごとにカンファレンス形式で開催していたが、今回はテーマを新型コロナウイルス感染症と、それに対する民間のラボなどの組織の対応に設定し、オンラインで開催。新型コロナウイルス感染症に対して、草の根的な取り組みを実践しているバイオラボや美術館などの組織のメンバーらを招聘して、各地の状況や取り組みなどについて話を聞いた。

## データベースから紡ぎだされる永遠のアンサンブル



平川紀道+一楽儀光+Sachiko M+ジム・オルーク+カヒミ・カリィ+ベネディクト・ドリユー  
+大友良英+木村友紀+石川高+アクセル・ドゥナー+マーティン・ブランドルマイヤー  
「quartets」(2008年) 撮影:丸尾隆一(YCAM)

今回発表する《quartets online》は、2008年にYCAMが発表した音楽家・大友良英らのインスタレーション作品《quartets》をオンラインで鑑賞できるようにした新作です。

《quartets》は、8名の音楽家の演奏を捉えたシルエットのみの映像が素材となっています。この演奏は「他のプレイヤーの存在を想像しながらソロで即興演奏をおこなう」という指示のもと、個別におこなわれたもので、この映像が展示室内のキューブ状のスクリーンに固有のアルゴリズムに則って再生されます。また、展示室の壁面には木や鉄などが音の振動で震える様子も常に表示されます。観客は、スクリーンとそれを取り囲む壁面を同時にすべて見ることはできないため、すべての演奏者の音を同時に聴くことはできても、全貌を見渡すことはできません。そして、コンピューターによって常に新しい組み合わせが生成されるため、どの瞬間も一度きりの「即興演奏」となります。

《quartets online》は、この作品をオンラインならではの作品に再構成したもので、無限の即興演奏をインターネットを介して鑑賞者各自の端末でいつでも体験できます。このアイデアは《quartets》の発表後からほどなく、大友とYCAMとの間で検討されていたもので、長い年月を経て実現することになりました。インターネットにこだまする、音楽家たちの儂く繊細なアンサンブルは、経験の基盤としての空間や時間の今日的な意味や、人と人との距離について、改めて考えるきっかけとなり、《quartets》とはまた異なる響きをもたらすでしょう。

### ■ quartets

2008年/YCAM委嘱作品

会場の中央部分に設置された巨大なキューブ。その各側面にはミュージシャンのシルエットが投影されており、またキューブの内部からはミュージシャンたちによる演奏音が聞こえてくる。このシルエットと演奏音は、8名のミュージシャンが個別に即興演奏をおこなった様子を事前に記録したもので、これらのシークエンスの時間的な配置をコンピュータープログラムで制御することで、相互に干渉し、滲み合うようなアンサンブルを絶えず生み出していく。さらに、キューブの側面の反対側にある壁に設置された巨大なスクリーンには、木・鉄・液体などで作られたオブジェのディテールが映し出されており、キューブに投影されたミュージシャンの演奏に合わせて、振動/流動していく。

観客は全ての演奏者の音を同時に聴くことはできても、キューブの4面、そしてそれを取り囲む壁面を同時に見ることはできないため、決して全貌を見渡すことはできない。

ディレクション/サウンドコンポジション:

大友良英

アートディレクション(キューブスクリーン):

木村友紀

ビデオ/オブジェクト(アウトースクリーン):

ベネディクト・ドリユー

アルゴリズムデザイン/プログラミング/システム:平川紀道

ギター/ターンテーブル:大友良英

ヴォイス:カヒミ・カリィ

シンセサイザー/ギター:ジム・オルーク

笙:石川高

パーカッション:一楽儀光

トランペット:アクセル・ドゥナー

ドラムス/パーカッション:

マーティン・ブランドルマイヤー

サインウェイヴス:Sachiko M

プロフィール

大友良英

音楽家 1959年横浜生まれ。実験的な音楽からジャズやポップスの領域までその作風は多種多様、その活動は海外でも大きな注目を集める。また映画やテレビの劇伴作家としても数多くのキャリアを有する。近年は「アンサンブルズ」の名のもと様々な人たちとのコラボレーションを軸に展示作品や特殊形態のコンサートを手がけると同時に、一般参加型のプロジェクトにも力をいれている。震災後は十代を過ごした福島でプロジェクトを立ち上げ、2012年プロジェクト FUKUSHIMA! の活動で芸術選奨文部科学大臣賞芸術振興部門を受賞。2013年には『あまちゃん』の音楽でレコード大賞作曲賞他数多くの賞を受賞している。2014年アンサンブルズ・アジアを立ち上げ音楽を通じたアジアのネットワーク作りに奔走。2017年札幌国際芸術祭の芸術監督を 2019年には福島を代表する夏祭り「わらじまつり」改革のディレクターも務めた。

木村友紀

1971年京都生まれ。1996年京都市立芸術大学にて修士課程修了。現在ベルリンを拠点に活動。空間と時間、または次元をテーマにしたインスタレーション形式の作品を発表している。California-Pacific Triennial オレンジカウンティ美術館（ニューポートビーチ、米国、2017年）、「OCEAN OF IMAGES: NEW PHOTOGRAPHY 2015」ニューヨーク近代美術館（2015年）、第30回サンパウロ・ビエンナーレ（2012年）等、国内外で活動の場を広げている。

一楽儀光

2012年長年プロとして活動してきたドラムを引退後、tkrworks社 ROLAND社 ベスタックス社と開発を進めた「doranome」 「LaserGuitar」を発表し話題となる。近年では自作モジュラーシンセ「レーザーモジュラー」を開発し世界各地でライブやワークショップを展開すると同時に GIGANOISE、GIGAMODULAR、GIGADISCO等のフェスティバルを企画し世界中で開催している。ARS Electronica Digital Musics部門 Honorary Mentionを受賞しベネチアビエンナーレ、サラゴサ万国博覧会に招待。2019年には瀬戸内芸術祭にて3作品をキュレーションし話題を呼んだ。山口在住。

平川紀道

1982年生まれ。もっとも原始的なテクノロジーとして計算に注目し、コンピュータプログラミングによる数理的処理そのものや、その結果を用いたインスタレーションを中心に、2005年から作品を発表。2016年、カブリ数物連携宇宙研究機構のレジデンスで作品「datum」シリーズの制作に着手、豊田市美術館、札幌国際芸術祭プレイベントなどで発表したのち、17年、チリの標高約5000mに位置するアルマ望遠鏡のレジデンスを経て、六本木クロッシング2019などで最新版を発表。また池田亮司、三上晴子らの作品制作への参加、ARTSATプロジェクトのアーティスティックディレクション等も行う。2019年より札幌を拠点に活動。

石川高

宮田まゆみ、豊英秋、芝祐靖各氏に師事し、雅楽の笙と歌謡を学ぶ。1990年より笙の演奏活動をはじめ、国内、世界中の音楽祭に出演。雅楽団体「伶楽舎（れいがくしゃ）」に所属し、雅楽古典曲や現代作品を数多く演奏してきた。笙の独奏者としても、様々な音楽家、作曲家と共に活動し、即興演奏も行う。

今までに、大友良英、坂本龍一、藤枝守、大森俊、Julio Estrada、Evan Parker、Bozzini Quartet、Antoine Beuger、Magnus Grandberg、Giorgos Varoutasらのプロジェクトに参加。和光大学、学習院大学、九州大学、沖縄県立芸術大学にて非常勤講師、朝日カルチャーセンター新宿教室で「古代歌謡講座」を担当している。

ジム・オルーク

1969年生まれ。ポップスからノイズミュージックまで幅広く活動し、「ガスター・デル・ソル」「ソニック・ユース」といったバンドにも在籍。主なソロ作品は『ユリイカ』、『アンシングニフィカンス』など。また、映画においてもリチャード・リンクレイター監督『スクール・オブ・ロック』といった作品の映画音楽を手掛けるほか、2000年には青山真治監督作品『EUREKA』に同タイトルの楽曲を提供している。

プロフィール

### カヒミ・カリィ

ミュージシャン、文筆家、フォトグラファー。フランスのサラヴァレーベル50周年アルバム『50ans de Saravah』参加。エッセイ『小鳥がうたう、私もうたう。静かな空に響くから』（主婦と生活社）、フランスの絵本翻訳『おやすみなさい』（アノニマ・スタジオ刊）。アメリカの書籍翻訳『サンタへの手紙』（クロニクルブックス・ジャパン）。2018年、自身の子育て記録『にきたま』（祥伝社）など。雑誌『vegg』でフォト&エッセイ連載。NY在住。長い海外生活の中で医食同源な生活の日々を綴っている。

### アクセル・ドゥナー

1964年ドイツのケルン生まれ。ケルンの音楽学校で、マルト・パーバと共にピアノとトランペットを学ぶ。1994年、ベルリンに移住。「即興音楽」、「作曲された現代音楽」、「ジャズ」、「電子音楽」の分野で数多くの国際的に知られる人物と協働する。自ら生み出したテクニックをベースに独自のトランペット演奏スタイルを確立し、しばし稀なスタイルの演奏を行う。ヨーロッパ、南北アメリカ、アジア、アフリカ、オーストラリアでのコンサートツアーを実施。多数のCDおよびレコードリリースでの出演を行なっている。

### Sachiko M

sinewaves、即興演奏家、作曲家。2000年発表『Sine Wave Solo』のミニマリスティックなサウンドで世界の注目を一気に集める。2003年『アルスエレクトロニカ・ゴールデンニカ賞』受賞。海外フェスティバルでの演奏、サウンドインスタレーションなどを行う中、ドラマ『あまちゃん』劇中歌“潮騒のメモリー”（共作：大友良英）の作曲をきっかけに作曲活動を開始。「音楽」と「美術」の間に切り込む『OPEN GATE』のキュレーション&ディレクションなど、新たな可能性を試み続けている。

### マーティン・ブランドルマイヤー

1971年オーストリア パート・イシュル生まれ。即興と作曲の間、および電子とアコースティック音楽の交差点で活動。ドラマーとして、実験的な手法と拡張されたテクニックをグループと組み合わせた独特のスタイルで広く知られる。90年代後半からグループPolwechsel, Trapist, Kapital Bandのメンバーであり、1997年に設立されたTrio Radianを通じて主に国際的に知られるようになる。1990年代後半以降、Radianと共に7枚のアルバムをリリース、そのうち5枚は米国のレーベルThrill Jockeyからリリースされている。数多くの有名なレコードレーベルで出版。2018年、ラジオ番組『Vive lesfantômes』でKarl Sczuka賞を受賞。

**開催概要**

大友良英+平川紀道+木村友紀+石川高+一楽儀光+ジム・オルーク  
+カヒミ・カリィ+Sachiko M+アクセル・ドゥナー  
+マーティン・ブランドルマイヤー+YCAM  
**quartets online (カルテッツ・オンライン)**

2020年9月9日(水)～2021年9月8日(水)

特設ウェブサイト <http://quartets.ycam.jp/>

※9月9日10時より公開開始/以降は年中無休

鑑賞無料

主催：山口市、公益財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市教育委員会

助成：令和2年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

共同開発：YCAM InterLab

企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]